

愛知県美術館の概要

1 活動の基本的な考え方

愛知県美術館は、わが国において国際的に活動する美術館の一つとして、国内外の 20 世紀から今日までを中心にした美術作品を、積極的に収集し、保存し、調査研究してきた。また、多様な価値観に基づいた幅広い内容の展覧会を開催し、教育普及にも積極的に取り組むことによって、鑑賞や創造の喜びを共有できる場となることを目指している。

2 施 設

1992 年開館（1955 年に開館した「愛知県文化会館美術館」が前身）

企画展示室（10 階）：	3 室	1, 4 8 0 m ²
所蔵品展示室（10 階）：	5 室	1, 4 0 0 m ²
ギャラリー（8 階）：	10 室	3, 1 1 3 m ²

3 主な事業内容

(1) 美術品の収集

県民の財産となる優れたコレクション形成のため、主に 20 世紀以降の美術を対象とする収集方針に基づき、美術品収集委員会の承認を経て、購入・寄贈・管理換えにより収集を行っている。購入には、1988 年度に設置された美術品等取得基金が充てられている。

美術品の収蔵状況（2025 年 3 月末日現在）（単位：件）

区 分	総数			
	購入	寄贈	管理換等	合計
絵画（洋画、日本画、版画、水彩・素描）	1, 520	3, 358	54	4, 932
立体（彫刻・立体、インスタレーション、考古遺物）	223	582	3	808
写真・映像	154	250	32	436
工芸	5	2, 187	5	2, 197
書跡・資料	62	611	22	695
小計	1, 964	6, 988	116	9, 068

＊上記の内 藤井達吉コレクション 1, 477 件 木村定三コレクション 3, 309 件

(2) 所蔵作品の保存

美術品の保管には、空調や防犯・防災に高水準の設備をもつ収蔵庫を用い、保存・修復専門の学芸員を配して、良好な保存環境の確保に努めている。また学芸員による作品の状態点検を通し、必要に応じて作品の保存処置や修復を行っている。

(3) コレクション展

収集した作品を展示公開するコレクション展は、2025 年度については年間（「あいち 2025」期間を除く）を 3 期に分け、その都度、内容を変えて開催する。展示室ごとに多様なテーマを設けており、このうち一室は「木村定三コレクション室」としている。

(4) 企画展

歴史に残る重要な美術動向や、優れた芸術家の回顧展、ジャンルを越えた新しい制作活動まで、美術の幅広い領域を紹介する企画展を、自主企画や他館との連携による共同企画などによって開催している。

2024 年度展覧会	会期	入場者数
コスチュームジュエリー：美の変革者たち シャネル、ディオール、スキャパレリ 小瀧千佐子コレクションより	4 月 26 日（金）～6 月 30 日（日） 57 日間	35, 065 人 （1 日平均 615 人）
アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの	7 月 18 日（木）～9 月 23 日（月・振休） 59 日間	13, 810 人 （1 日平均 234 人）
相国寺展 ― 金閣・銀閣 鳳凰がみつめた美の歴史	10 月 11 日（金）～11 月 27 日（水） 42 日間	82, 205 人 （1 日平均 1, 957 人）
パウル・クレー展 ― 創造をめぐる星座	1 月 18 日（土）～3 月 16 日（日） 50 日間	50, 341 人 （1 日平均 1, 006 人）

【2025 年度企画展】

展 覧 会 名	会 期	概 要
どうぶつ百景―江戸東京博物館コレクションより	4月11日（金） ～6月8日（日） 51 日間	本展は、2022 年にパリ日本文化会館で開催された「いきもの：江戸東京 動物たちとの暮らし」展をさらに拡充したものです。江戸時代、長く続いた平和を背景に、人々の暮らしと動物は密接に結びついていました。荷を運ぶ牛馬が市中を往き交い、人々は犬や猫を家族の一員として可愛がり、鳴き声を楽しむ鳥や虫が飼われていました。人々にとって動物が身近であったことは、様々な生き物のかたちが着物や装身具、玩具のデザインに取り込まれていったことから読み取られます。本展では、東京都江戸東京博物館の珠玉のコレクションのなかから多様な美術作品・工芸作品を展示し、江戸・東京の都市空間における人と動物の関わり合いをご紹介します。
竹内栖鳳展	7月4日（金） ～8月17日（日） 39 日間	近代の日本画界に大きな足跡を残した竹内栖鳳（1864-1942）。画家たちが時代に即した新しい絵画を模索していた明治初期、若き栖鳳は円山・四条派の師に弟子入りし画法を学ぶ一方で、室町水墨画や江戸絵画など古画の模写を通して流派を越えた画技を研究し、また写生にも励みました。1900 年の渡欧を機にヨーロッパの芸術に大きく感化された栖鳳は、その技法を巧みに取り入れた近代的な日本画の創出に取り組み、伝統の継承と革新の双方を体現していきました。本展では、創作者として先頭を進み、教育者として後進の範となった栖鳳の画業を振り返るとともに、その表現世界の多様さをご紹介します。

国際芸術祭「あいち 2025」 灰と薔薇のあいまに	9月13日(土) ～11月30日(日) 79 日間	2010 年から3 年ごとに開催してきた「あいち」の国際芸術祭は、このたび6 回目を迎えます。初めて海外から芸術監督を招く今回の「あいち 2025」は、愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなかを会場に、国内外から多数のアーティストを招き、現代美術、パフォーミングアーツ、ラーニングなど、ジャンルを横断した多様な作品やプログラムを発信します。中東の詩人アドニス の詩の一節から採った「灰と薔薇のあいまに」をテーマに掲げ、人間と環境との複雑に絡み合った関係を、地質学的な時間軸から考察し、破壊と開花のあいまにあるニュアンスに富んだ思考への道を模索します。
ゴッホ展 家族がつないだ 画家の夢	1月3日(土) ～3月23日(月) 74 日間	約10年の短い画業の間に油彩や素描など2,000点余りの作品を残したフィンセント・ファン・ゴッホの死後、生前に売れた1点を除く大半の作品は、兄の生活を支えその芸術の良き理解者であった弟のテオドルス（通称テオ）が保管しました。しかしテオも兄の死の半年後に生涯を閉じ、テオの妻ヨハンナ（通称ヨー）が膨大なコレクションを管理することとなります。ヨーは、義兄の名声を高めることに人生を捧げ、作品を展覧会に貸し出し、販売し、膨大な手紙を整理して出版しました。その息子フィンセント・ウィレムは、コレクションを散逸させないため、フィンセント・ファン・ゴッホ財団をつくり、美術館の設立に尽力します。 本展では、ファン・ゴッホ美術館の所蔵品を中心とするファン・ゴッホの作品 30 点以上にくわえ、貴重なファン・ゴッホの手紙 4 通なども展示し、家族が画家に抱き続けた深い愛と敬意をご紹介します。

(5) 普及・教育事業

- ア 企画展・コレクション展に合わせた記念講演会やギャラリートークの開催
- イ 申し込みを受けた各種団体、学校に対する、展示解説やガイダンス
- ウ 学校の教員を対象とした鑑賞学習交流会や鑑賞学習ワーキンググループの実施
- エ 小学生・中学生・高校生向け鑑賞プログラムやオンライン授業の実施
- オ 視覚障がい者向け鑑賞会の実施
- カ 愛知県陶磁美術館、県内市町村との共催による移動美術館の開催
- キ 学芸員資格取得のための博物館実習の実施
- ク 友の会との連携、会員対象の動画配信

(6) 映像事業

映像表現の可能性を拡張するような実験的動向に着目し、「アートフィルムフェスティバル」などの上映会の開催を行っている。

4 ギャラリー展示室利用状況

(1) 2024年度の美術館ギャラリー運営状況

2024年度の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは172件、追加申請が1件あり、173件の利用許可をした。なお、許可後に5件の取消を行い、開催された展覧会は168件であった。入場者数は277,722人であった。

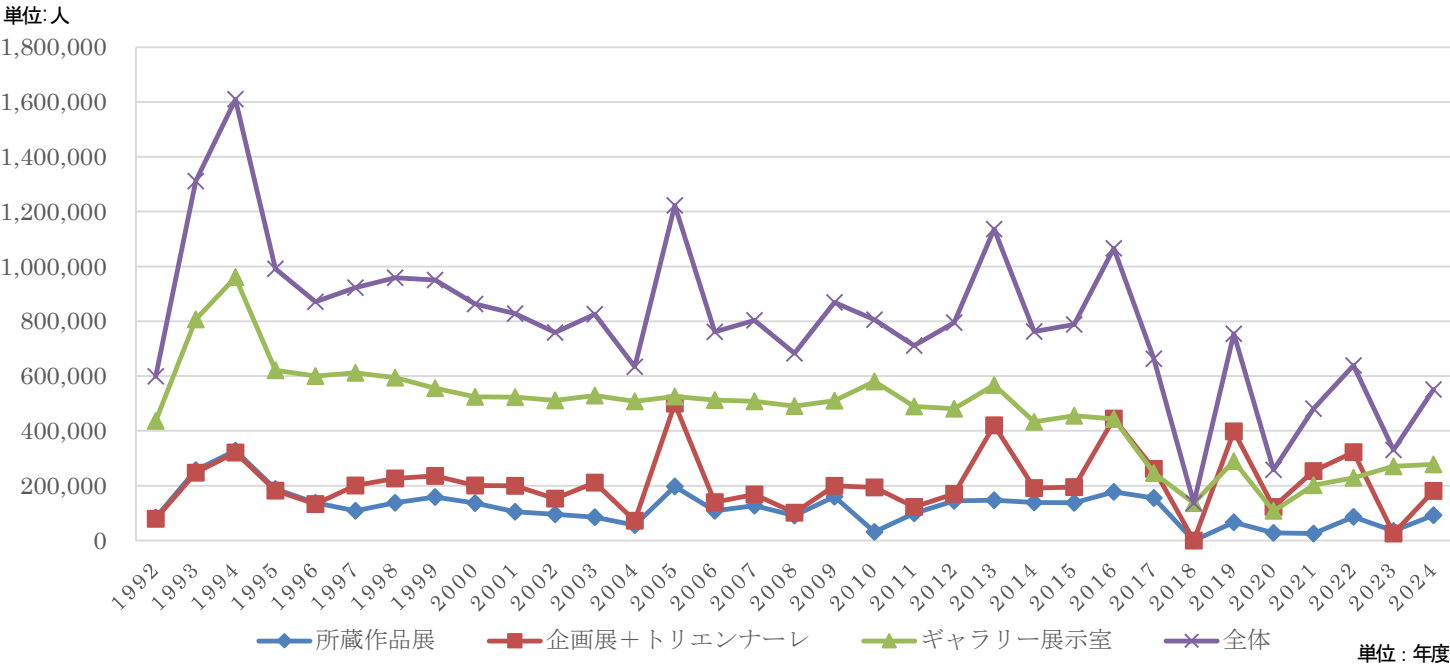
開 催 期	仮申込 件数	ギャラリー利用 申請・許可件数	ギャラリー利用 許可取消件数	ギャラリー利用 件数
2024年度 (4月～3月)	172件	173件	5件	168件

(2) 2025年度の美術館ギャラリー運営計画

2025年度の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは152件あり、同数の利用許可をした。なお、許可後に3件の取消を行い、開催予定の展覧会は149件である。

開 催 期		仮申込 件数	ギャラリー利用 申請・許可件数	ギャラリー利用 許可取消件数	ギャラリー利用 予定件数
2025年度 (4月～3月)	継続利用	件 149	件 149	件 3	件 146
	新規利用	3	3	0	3
	計	152	152	3	149

<参考> 入館者数推移



企画展の入館者数の上位4企画展: ①2005 年ゴッホ展 423,745 人②2017 年ゴッホとゴーギャン展 225,041 人
③2021 年ジブリ大博覧会 206,345 人④2000 年セザンヌ展 171,060 人